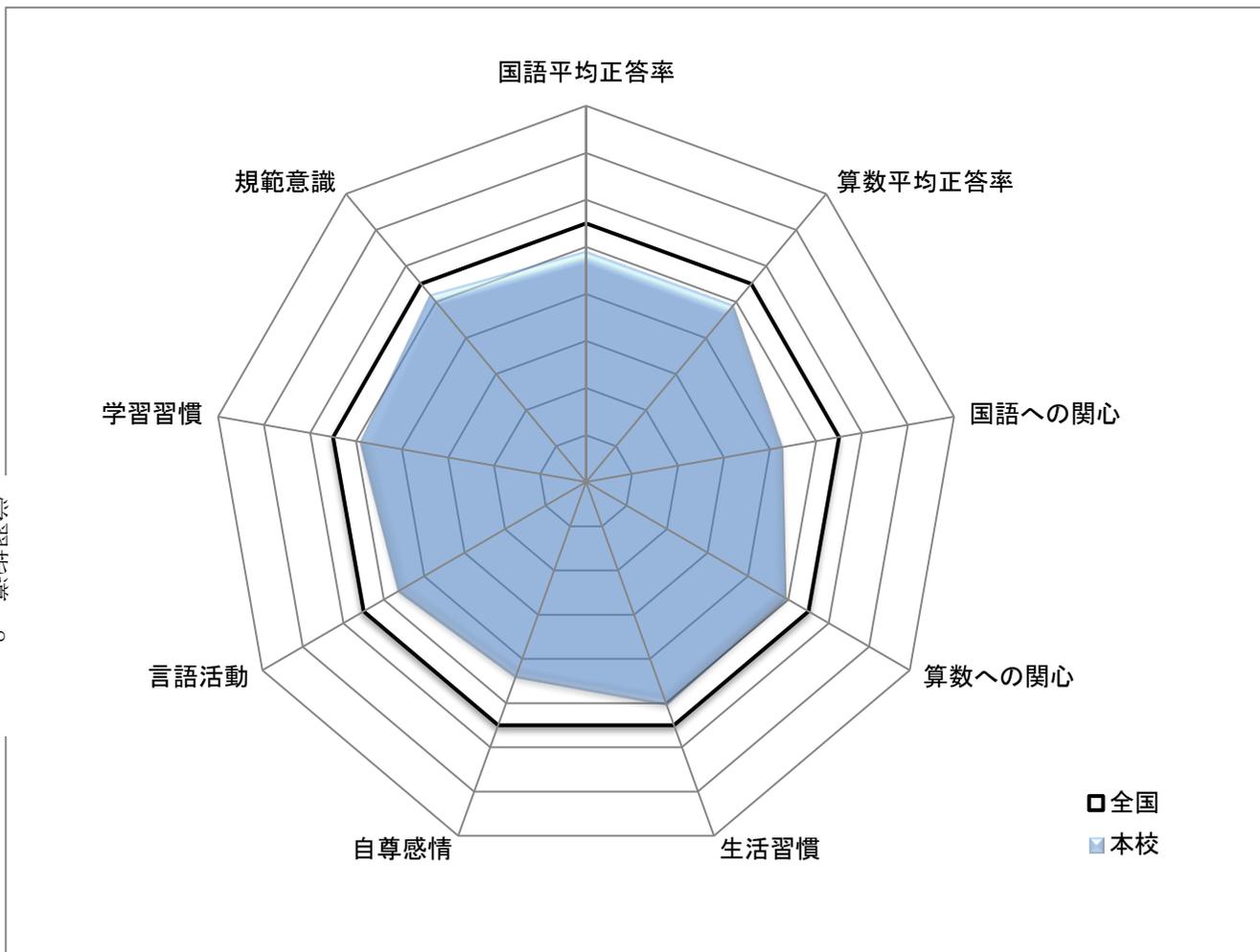


本調査は令和3年5月に全国の第6学年児童を対象に行った学力調査です。各教科別に正答率・到達率をグラフに表しました。太線が全国平均の正答率・到達率を表します。中太線が本校の正答率・到達率を表します。



《現状把握》

算数・国語への関心・意欲が全国と比較し、下回る結果となった。それに伴い、平均正答率も全国よりも下回っている。

国語では、目的や意図に応じて理由を明確にしながらか自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したり、漢字を正しく使ったり、主語と述語との関係を捉えたりすることに課題が見られた。

算数では、数と計算の領域で課題が見られた。基本的な四則計算の理解をさらに深めていく必要がある。また、国語と同様に、答えの求め方を記述することに苦手意識が見られる。

《授業改善のポイント》

教科を問わず、誰もが「分かる授業」をするために、興味関心を高める授業展開の工夫や多様な考えを導き出すための発問の工夫をしていく。

国語では「読むこと」において、文学的な文章や説明的な文章の内容を正確に読み取っていく。根拠となる部分を見付け、自分の考えを記述させる活動を単元を通して意図的に取り入れていく。自分が書いた文章や、友達が書いた文章を推敲し、正しい漢字の使い方や文章全体の構成や書き表し方などを整えることができるようにしていく。

算数では、ベーシックドリルの診断テストの結果を基に、未定着の単元内容を見直し、家庭学習週間などを利用して繰り返し復習して基礎学力の定着を図っていく。また、立式だけではなく、グラフや表、数直線などを用いて考えを説明できるように、日々の授業の中で取り組んでいく。

《チャートの特徴》

＜全国と本校の平均正答率＞

国語 全国 64.7% 本校 57%
算数 全国 70.2% 本校 62%

すべての項目で全国平均を下回った。特に「国語への関心」「自尊感情」の項目については、全国から大きく下回る結果となった。

《家庭・地域への働きかけ》

家庭生活週間や家庭学習週間を利用して、規則正しい生活・学習習慣が身に付くように家庭との連携を図っていく。また、学校と家庭で連絡を密に取り合い、児童の頑張りを認め、褒めていくことで児童一人一人の自尊感情を高めていけるようにしていく。

